

会 議 録

会議の名称	令和6年度 ざま未来プラン懇話会		
開催日時	令和6年6月21日（金）13時30分から15時30分まで		
開催場所	ハーモニーホール座間2階 大会議室		
出席者	大下委員、黒沢委員、杉浦委員、内藤委員、中尾委員、福島委員、藤井委員、宮舘委員（代理出席）、室橋委員、米山委員、津軽石アドバイザー		
事務局	総合政策部長、総合政策課長、企画調整係長、計画推進担当2人		
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開	傍聴人数	0人
非公開・一部公開とした理由			
議 題	1 人口減少が始まった座間市		
資料の名称	資料1 市民アンケート調査 集計結果 資料2 まちづくり指標（速報値）		
会議の結果			
各委員の意見を今後のざま未来プラン推進に係る取組に活かすものとする。			
議事の詳細			
事務局	議題1 人口減少が始まった座間市 （議題1について、ざま未来プラン策定から現在に至るまでの市の取組等を説明。また、資料1及び資料2の補足に加え、懇話会の進行方法を説明。） 委員の皆様から、座間市の現状や課題、今後どのような考え方や取組が必要か意見を頂戴したい。		
委員	資料1の「まちづくりの目標（政策）が実現されていると思うか」という質問に対する「思う」「思わない」「どちらでもない」という市民の回答を受け、「思う」のグループと「思わない」又は「どちらでもない」のグループに分けて整理をした。「思う」の回答が比較的多かったのが、キーワードでいうと環境、健康、緑、持続可能性であり、この結果から、座間市は生活環境が良いのだと感じている。一方で、「思わない」又は「どちらでもない」の回答が多かったのが、にぎわい、健やかに育つ、認め合う・支え合う、魅力というキーワードであり、私なりの解釈だが、何かという主語は難しいが、積極的な発信力が不足		

していると感じた。例えば、にぎわいを作るために行政や民間企業、市民が積極的にこういうことをやってみよう又はやらないようにしようということや、現状を肯定しつつ、認め合う・支え合うためにはどうしたら良いか、また、魅力を上げるにはどうしたら良いかということに対して、積極的な発信が不足していると解釈した。

資料1の4ページにあるワードクラウドの中で、子どもや道路に関連する意見が多く、待機児童の解消や道路整備をしてほしいという声が上がっている。私がいる支店でも座間市在住の子育て世代の職員がおり、児童ホームの待機児童の問題があって、「1年生や2年生は入れるが、3年生や4年生など上の年代になるとなかなか入れないため不便している。」と話していた。また、車でお客様のところに行く時、道路が非常に混んでいるため時間がかかると感じている。色々課題がある中で、資料1にある子どもや道路行政がその1つであるように思う。

ただ、これを全て解決するのはなかなか難しい。待機児童であれば、施設を大きくするなど解決策はあるように思うが、道路の拡張や収用、公共交通機関を網の目のように巡らせるなど、そういったことをするには時間を要する。何を優先するのか、また、実現性が高いものを考えていくことが必要。その中で、座間市として「このテーマを進めたい」「こういうことを打ち出したい」と積極的な発信力を持ち、市民や民間企業、市が一体となってまちづくりを進めていくと、魅力も必然的に上がっていくものと考えている。

また、要望が多い中では、近隣行政と連携してもいいのではないかと思う。私の職場は座間市の一番北側にあり、すぐ裏は相模原市。例えば、近隣の自治体と、抱えている問題や持っている良いところ・悪いところなどの情報交換をしながら、座間市は何を優先していくのかということを決めて、それに対して皆で進んでいく一体感があると良いと思う。

最後に、ざま未来プランが市民に対する発信と外に対する発信のどちらなのか疑問に思っている。今回のテーマである人口減少という話の中では、座間市に住む人がこの地で子育てし、若い層を増やしていくために、生活しやすい環境を作っていくという市民に向けた視点を持ちつつも、座間市の生活のしやすさを求めて他の自治体から人が移住してくることによって減少を止めるという視点もある。どちらかというとも市民目線の計画だとは思いますが、外に座間市の魅力をアピールして、他自治体から転入してもらおうという視点も必要だと思う。

委員

今の話の前段になるが、今回のテーマである人口減少について。ざま未来プランが動き始めて1年というところで、座間市内の現状と5年、10年後の人口推移の予想を教えてほしい。近隣市と比べると座間市の転入・転出者の年齢

事務局	<p>層は、働く世代が最も多いと2、3年前の資料に出ている。それを踏まえて、どのような予想をしているのか。また、将来的な交通網の設計計画と産業商業についても目玉が近年中にあるのか、どのくらいのことを掴んでいるか。</p> <p>まず、今後の人口推計は、細かい年代別の推計はできていないが、幅広く年少人口、生産年齢人口、老年人口と分けると、座間市はこれまで令和に入って人口が微増してきたが、その期間においても年少人口は減少傾向にあり、老年人口は増加傾向にあった。また、15歳から64歳を生産年齢人口についても、これまで少しずつ増えていたが、将来的には減少すると推計している。総人口としては、少しずつ減少しているというのが現状の人口動態である。一方で、世帯数は増え続けており、1世帯当たりの人数は減っている。人口減少しているが、世帯数は増加しているのが特徴である。</p>
委員	<p>交通網について、県央地域は高速道路のICがあちこち作られていて、これからも増えるだろう。また、商業モールなどの都市開発が近隣で更に進む。そういった地域に住むには地価が高すぎるので、座間市内の駅周辺にアパートを探しに集まっている。そうすると生産年齢人口は増え続ける。例を挙げると大和市、海老名市は人口減少の計画を2年前に策定したが今は人口が微増している。それに関連して、座間市が住み良いまちということでアクセスも良くなると、人口が増える可能性も出てくる。もし座間市で産業商業や交通網で5年、10年後に何かあるとなると、更に大きな目標を立てることもできると思う。</p>
事務局	<p>公表している計画において、交通網関係で具体的な新たなものは今のところない。インフラに関して言うと、道路は国道、県道、市道と役割分担があって、座間市として都市計画道路の整備を進めたいという視点で行くと、神奈川県との協力をいただきながら座間南林間線の整備を計画として進めていきたい事業と捉えている。また、具体的に産業商業関係で開発や誘致は、今のところはない。</p>
委員	<p>産業商業について伺ったのは、ある都市で自治体との契約が切れてしまい、企業が撤退することになり、今まで人が集まっていたところが急になくなる又は変わってしまうということが近年起きて問題となっていた。人が集まる新たな仕組みを作ろうという話もあったため、座間市内の商業施設が今後もずっとあり続けるのかなど、市民としては非常に気になる。</p>
委員	<p>転入のデータはあると思うが、どこに転出したか分かる資料はないか。</p>

事務局	<p>手続上、転出予定地を書いてもらうが、それをまとめたデータは作成していないので、どこに転出されているかの分析までは現状行っていない。</p>
委員	<p>座間市が将来どのような都市としてやっていくのか。1つは住宅だと思う。どのような人が転入し、転出するのか。座間市には良い資源があるので、どのような質の高い住宅を提供するかが重要。今、駅前には安いアパートがたくさんある。それが座間市の魅力とは言わないけれど、それを求めて多くの人達が入ってくる。そのために福祉は大変だと話していた人がいる。だから、住宅として、どういった住宅を提供するのか。座間市へ入ってきてどこかに行く人なのか、私のようにずっとここに居たい人なのか。座間市は若い人が必要なのか、高齢者にとって良い都市を作るのか。放っておくと座間市は物流都市になる。今は、いくつかの商業施設で魅力のある都市になっている。市内を歩いていると、住宅になるだろうと思っていたところがほとんど物流倉庫になっている。おそらく駅が遠いので住宅は無理ということだったと推測するが、物流業界には良い土地だと思う。それによって交通渋滞が起こっているので、放っておくと座間市は物流に特化していくと思う。ずっと住み続けている市民からすると、イタチごっこで、便利になるけれども渋滞など住環境が悪くなる。どういう住宅を作っていくのが重要だと思う。</p>
委員	<p>住宅というと民地である。道路幅をいくつにするとか、元の大きな計画があった上で住宅地が増えていくのであれば良いのだけれど、現状を見ていると、空き家になった広い土地が分譲されて、その土地に3階建てを3軒作るなどして狭小な住宅が増えているように思う。一方で、道路状況は変わらないため、そこに生活のしやすさを求められるかという点、民地との間では非常に難しい部分がある。特に空き家が増えている今の状況では大きな課題だと思う。</p>
委員	<p>今言われたように、私の周りでも、宅地の分譲が起きている。ただこの話の難しいところは、分譲された住宅に住む人がいて、実際若い人が入ってくるのは座間市にとっては良いことである。だから、分譲することは必ずしも悪くはないが、どこかで抑え込まないと今言われたように、座間市はどんどん狭小な住宅が建築されていく。本来住宅で平屋だったものが、ほとんど分譲されて3階建て。そうすると明らかに住環境が変化する。どこまで抑え込んで、そういう住宅を作るか、難しい問題とを感じる。</p>
委員	<p>これからどういう人を対象にまちづくりをしていくかは非常に難しいと思う。昔、座間市のキャッチフレーズで「緑と屋根と坂のまち」とあったが、坂</p>

委員	<p>が多いということが特徴で1つの売りだった。ところが、それが実際今になると高齢者にとって非常に厳しい条件や居住環境になっており、難しい問題も発生している。したがって、まちづくりの仕方というのは、これから十分な検討が必要。どういった人を対象にして、どのような人のためにやっていくか、非常に難しいと思う。</p> <p>座間市は本当に魅力のある市だと思っており、座間駅から歩いて5分程のところには県立公園もある。ただ、建設されてから50年以上過ぎた旧社宅も残っていて、座間駅前には再開発が必要と感じている。近隣だと相武台前駅、小田急相模原駅、さがみ野駅などの駅があるが、最も座間駅がそういった整備が遅れているのではないかと感じている。座間市に引っ越して来られる方に「なぜ座間市に来たのか」と必ず聞いているが、家賃や地価を線路沿いに都市部の方から調べていくと座間駅か相武台前駅に辿り着くとのこと。隣の海老名駅だと3線通っていて便利だが、家賃などが3割くらい高いため、座間駅や相武台前駅は物件が空かないと昨年不動産業者が話していた。やはり安いのも魅力の1つ。</p> <p>次に、座間市西部の座間や四ツ谷、新田宿の地域は高齢者など買い物に不便をされている市民が多い。民間の交通会社は商業ベースで考えるため、利用者数が少ないと増便は難しい。資料2を見ると、座間市のコミュニティパスの利用者数が増えているとあったので、もう少し路線を広げ、増便できると、座間市の魅力が向上し、過ごしやすく暮らしやすいまちになると思う。</p>
委員	<p>先程空き家の話があったが、社会福祉協議会では空き家を利用した子どもの居場所づくりや高齢者の居場所づくりとして認知症カフェといった事業を、市の援助、補助金を受けながら実施している。また、皆様から寄付された募金を共同募金会に配分いただき、子どもの学習支援などを実施していて、先日も空き家があるので社会福祉協議会で何とか利用できないかという相談が何件もあった。当然、現地を見て利用できるようであれば、その空き家を利用して社会福祉協議会の事業として子どもの学習支援や高齢者の居場所づくりを展開していきたいと考えているが、なかなか情報が少ない。空き家の情報やそこを利用できるという情報が入ってくれば、社会福祉協議会としても市とタイアップして進められると考えている。</p>
委員	<p>1つ情報として、資料1に書かれているワードクラウドの1位に子どもというキーワードが来ています。空き家の情報と働く世代に関連して、県内の自治体では、若い世代の夫婦を招待して地域にお試しで住んでもらい、良ければそのまま住んでもらうという政策を行う自治体がある。空き家を使用し、近隣に</p>

委員

働き先となるショッピングモールがたくさんあるとターゲットが絞れる。ワードクラウドを見ると市民は子ども・子育てというところに非常に困っていると思うので、近隣の自治体を参考にすることで、座間市の課題が見えてくるのではないか。

子どもというワードが先程から出ている。資料1を見ると、「政策1 共に学び、健やかに育つまちづくり」の全体の集計は「思う」が若干高い。年代別の回答数を確認すると、20代、30代の特に子育て真っ只中の世代を見ると、例えば20代は「思う」が23%で「思わない」が38%、30代は「思う」が25.6%で「思わない」が40%。40代まで上げると「思う」が26.7%で「思わない」が32.3%である。これは50代以上になると逆転し、「思う」が高くなる。50代以上の世代の特徴は、「どちらでもない」の回答が半数近くなる。これは、我々の研究グループでも出ているが、いわゆる今の自分の生活に直結的なものについては非常に関心があるが、そこを抜けてしまうと基本興味がなくなるということの現れであろうと思っている。例えば、保育福祉に関連するもので「政策5 共に認め合えい、支え合うまちづくり」を見ると、40代以上の「思わない」が増えていくことも1つ問題である。

今後、少子化が進んでいく中で保育サービスを必要とする子ども達が減少する予測もあるが、今の国の政策である「様々なニーズに応じた子育てサービスの提供」という点から考えると、今以上に保育サービスの充実は必要になってくるだろう。その中で、例えば箱物や環境を整備したとしても、そこに従事する保育士の不足は、座間市だけでなく、全国的に問題視されており、それに対する政策が色々行われている。座間市を例に挙げると、昨年度は一人あたり月額1万円の年間12万円という給付が行われていたが、一度中断した。また復活すると聞いており、保育園の待機児童も30人に減って県内ワースト1から脱出したという情報もある。ただ、資料2速報値の4ページにある新規・拡充事業の相模が丘地区の新設保育所整備が断念したと聞いている。そうすると、30人まで待機児童を減らして県内ワースト1から脱することができたといっても、また後戻りする可能性もある。

情報として、令和6年1月現在で、保育士の全国的な求人倍率が3.54倍。これは次第に上がっていき、神奈川県もほぼ同様と考えられる。神奈川県保育士の有効求人数は2,283人で2.99倍。ところが、そこに供給する保育士養成校の今の状況は非常に危機的状況であり、短期大学だけの集計になるが、定員充足率は既に60%を切っていて、50%台ということになる。概算で計算すると、再来年度、保育士として送り出すことができる全員が保育士になったと仮定して約890人になるが、そうすると2,000人を超える保育

	<p>士を必要としている神奈川県内において半数に満たない供給である。</p> <p>そうしたらどうなるかという、潜在保育士の掘り起こしや保育士の資格は持ってないけれども保育サービスに従事する人（例えば、定年後に第2の仕事として保育の補助に入る人）の掘り起こしをしていかないと追いつかない。このことを他の自治体も分かっている、ある自治体では、転入奨励助成金というのがある。市外からその市に移ったら20万円の助成金が出る。また、奨学金の返済に苦勞する学生が多い中で、年間20万円の条件で、3年間合計60万円の補助がある自治体もある。更に、以前保育士だった人が潜在保育士の掘り起こしで復活すると、2年間勤める条件で10万円、20万円補助する自治体など色々ある。先程、座間市では1年間12万円の給付とあったが、ある自治体では、勤続年数にもよるが最高で50万の給付がある。そこまでして新規保育士の獲得と一度保育士になった人達が辞めないような政策を立てている。以上を踏まえて、座間市も対策を練っていかないと、箱を作っても保育士が集まらないということになる。</p> <p>現在国が進める「誰でも通園制度」により、保育サービスを本来必要としない人達も、保育サービスを受けられるようになっていく。先程、委員から若い世代の呼び込みに関して話があったが、例えば、子どもを預けるところがないとなると座間市での子育てを躊躇することになると思う。政策を必要とする世代を分析し、今座間市が抱えている問題に真剣に取り組んでいかないと、若い世代が子育てするには厳しいと思われるので、座間市にとって良いことではないと思う。</p> <p>保育士養成校の定員充足率が60%を切っていると言ったが、今後加速していき、おそらく養成校のいくつかはここ5年のうちに潰れていくと思われる。今後は、自治体や養成校、現場が互いに情報をしっかり共有し合いながら対策を立て、いかに保育士や保育福祉の従事者を確保して、長く勤めてもらうのか。また、市外への転出を防ぐといった対策を喫緊で取っていかないと間に合わない可能性もある。</p>
委員	<p>座間市の場合は12万で他自治体は50万というのはどういうことか。</p>
委員	<p>昨年度、保育所で一定期間働いている人を対象に月1万円の年間12万円支給した。他自治体でいうと、4年未満の勤続であれば年間15万円の給付や、勤続20年以上であると年間50万円給付されることもあるように、色々な自治体が保育士獲得に向けて、様々な策を取ってきている。近隣の自治体では、「誰でも通園制度」の開始前に、休日保育を始めると発表した。蓋を開けてみると、対応できる保育所がないということで、養成校にも学生でいいのでバ</p>

委員	<p>イトとして来てもらいたいと依頼が来る状態。情報がしっかり共有できていなかったところが、1つの問題であろう。これは加速していこうと思っているので、どこかでしっかり手を打って対策を立てていかないと子育てしやすいまちというのは難しいと思っている。これは座間市だけではなく、全国的な傾向だと思う。</p> <p>商工会や工業会の会員から道路渋滞がひどいとよく話を聞く。工場関係が多いことから東原、相模が丘地域が特に多い。渋滞のため予定よりかなり時間を持たないと取引先に届けられないとか、ドライバーの精神上良くないとか色々なことを聞く。今計画している南林間線について、市職員に聞くと2037年のリニアの方が早いかもしれないと話していた。市道であればなんとか解決できる部分が、国道と県道が関わってくるとなかなか前に進まない。特に南林間線は鉄道が通っているので、アンダーパスはなかなか難しく、来年度あたりから予算立てするという話も聞いた。年々伸ばすと完成までの公費が余計に掛かる。今80億を超えていると聞いたし、道路を早く解決するように進めてほしい。国道246号沿いに大きな物流倉庫ができたが、まだテナントが埋まっていない。今年の3月頃に見学に行ったが、とても立派な建物で、計画時はテナントが決まっていなくても建てればある程度埋まると思った。座間市は東西南北5km四方の小さなまちなので、パートや従業員など人を集めるが容易である。今、近隣自治体の工業団地に物流倉庫がたくさん建設されており、人がいないので、シャトルバスや送迎バスで人を集めなければならないが、座間市の場合は募集を掛けると近隣の大和市、相模原市、海老名市などから集まると聞いている。なんとか市内商工業の活性化のためにも、座間市の職員はよく言われると思うが、道路整備を早く進めてほしい。</p>
委員	<p>切り口が変わってしまうが、アンケート結果を見ると政策5が一番厳しいと思っている。この厳しい評価の理由は、福祉や介護に関することなので、行政に対する市民の期待値が自然とどの自治体でも高い分野であるということがアンケート結果に表れていると解釈した。解決策はないが、地域社会との関わりや繋がりというのをいかに行政側が手助けしていくかももちろん必要だが、一方で、市民一人一人が自分事として捉え、お隣同士・近所同士で繋がり合い、いざという時は助け合うといったコミュニティを作っていくということがこれからの人口減少社会では大事だと一般論になってしまうが思っている。資料1の4ページにあるワードの出現頻度を見ると、5番目なので多いわけではないのかもしれないが、市民がもっと市政に関わりたいとか、自分達の地域をもっと自分達の力で良くしたいという思いを持たれている方が多いということが表</p>

委員

れていると思う。ここをうまく吸い上げて、その市民の活力を活用できるよう色々な意見を聞きながら市民を巻き込んでコミュニティを作っていく又は再生していくとできてくると政策5の評価も変わっていくのではないかと思う。

今話にあったワードクラウド出現頻度第5位の市民に関連して、市民が市政に関われるシステムの必要性や市民の声を真摯に聞いてほしいといった意見があったようだが、資料2の7ページにある「施策6 市民協働」について話したい。まちづくり指標として協働事業に資する協定数や市民参加手続数の目標値が定められており、今までの実績が示されている。

まず、市民の意見を聞きたいということで、行政でかなり努力はされていて、市民参加手続といったパブリックコメントや審議会の手続をいくつか用意している。それが条例で定められており、先日、委員を務めている市民参加推進会議で令和5年度の実績報告を受けた。基準値となる24件の手続や最新値となる令和4年の34件の手続は全て、市が重要な計画や条例を策定するに当たって市民の意見を聴取した手続の数である。中でも、市民の意見公募をするパブリックコメントの手続で、市民の意見がどの程度出されているかを検証すると、自分への影響を感じなければ関心が向かなくなってしまう傾向がある。そうすると、いくら行政から投げかけられても全く見向きもしなくなってしまう現象も実際にあり、非常に難しいと感じている。

次に、協働事業に資する協定は、市民の活力を利用し、行政だけではなし得ない部分を対等な関係を保ちながら企業や団体と協定を結んでより高い効果が得られる事業にしていこうという取組である。私が団体支援の立場から関わっている市民活動団体でも、行政と協働事業という形で地域課題の解決に向けて取り組まれている。事業所や企業のような組織がしっかりしているところの協働であれば比較的継続性がある一方で、市民活動団体は自分達で自発的に作った団体であって、強いリーダーシップで引っ張ってくれるリーダーがいる限りは大丈夫だが、高齢化が進み、その後の後継者が見つからないと団体が不安定になってくる。今後の協働事業が成立するののかという課題も出てくるので、高齢化という点も私達が支援する市民活動団体の1つ大きな課題と捉えている。

委員

2つ話があって、まず広域連携について。消防関係は広域連携が実現しているようだが、これから人口減少ということになると、市税も減っていくので上手く使うとなると、近隣自治体との共益協働の広域連携を結んでいくと、保育から何かから新たなものが生まれる可能性がある。この5年、10年先のプランを含めて、税収が今後少なくなり、人がいなくなるというところを考え、近隣

	<p>自治体と広域で連携できるよう検討していただきたい。</p> <p>次に、産業商業は座間市の中でも非常に重要なポイントだと思っている。資料2の「施策7 産業振興」のまちづくり指標の実績値が総合計画からずっと空白になっている。座間市は、産業商業について次の一手をどのように打つか、何を考えているのかが見えない。以前なぜ消えたのかと質問したら、県が製造品出荷額などの数字を出さなくなったからやめていると。私はもう指標から消えたかと思っていたら、いまだに空白で出ているので、ざま未来プランを推進していくに当たり、商業も産業も座間市としてどういう位置づけにあるのかこの資料の中で見ると良いと思う。産業商業関係が、弱いというのは私も常々、何年もかけて言っているので、ぜひ強化してもらいたい。そうすることによって、生産年齢人口又は子育て人口が増えて、持続可能な自治体になっていくと考えている。</p>
事務局	<p>受け止めさせていただく。</p>
委員	<p>駅が1つもなく、車社会で近隣自治体の力を借りて色々なサービスを利用している自治体もある。市内に工業団地400社くらいの仕事もある。そこから市外に出たところで住環境のコミュニティが形成されている。</p>
事務局	<p>それぞれの市が互いに提供するものがあれば、広域連携もできると思う。近隣の自治体とやり取りをしているので、進めば見せていけると考えている。</p>
委員	<p>広域連携は、例えば、消防が海老名市と綾瀬市と連携しており、家の前を何度か救急車が通った。海老名市の消防が最寄りなのですぐに駆けつけてくれて、非常に効率良く展開できるという良い面があるので、広域連携で今後も様々な分野の可能性を探して行ってほしい。</p>
委員	<p>昨年、新田宿で火事があった時、海老名市の消防が真っ先に来てくれた。消防職員や市職員などの関係者はよく分かっているが、意外と市民はまだ救急車含めて消防の広域連携をあまり認知していない。その時に市民がなぜ海老名から来るのだろうと話していた。火事や救急の場合は、一番近いところから行けるのが一番良いと思う。</p> <p>私達商工会も近隣の大和市、海老名市、綾瀬市と意外と交流が多く、色々なことで連携しながら事業をやっている。座間市も座間市だけでできないのであれば、先程話されたように少し広域な、せめて県央地域で連携すれば良いのではないかと思う。</p>

委員	<p>弊社は全国に店舗があり、東北や四国、山陰は維持ができないくらい危機感がある。座間市は人口が13万人で、線路に囲まれているので、将来性がある商業が成り立つ部分も見えている。そういう意味で10代20代の世代が座間市をどう考えているかという点が大きいのではないかと。市内の高校に通う生徒が「この商業施設の駐車場は、大山の頂上が一番よく見えて、ひまわり畑と座間神社と繋がっている。」と話していた。学生達からすると意外とそういった新しい観光スポットや見方が座間市にはある。座間市が全然だめというわけではなく、良いところが学生にはたくさん見えている可能性はある。そのため、学生が出て行かないようにするべきだと思う。この地で仕事や子育てをし、高齢化していくところまで全て含めて、受け止められるくらいの深さが市に求められているのではないかと。思う。</p> <p>今、ショッピングモールでは1,500人くらいに働いていただいております、ほとんどが女性ですが、中国やベトナムなど外国籍の方が間違いなく増えている。その人達を受け入れてくれるのも10代20代で、受け入れてくれないと我々の仕事は成立しないところに来ている。10代20代がこのまちでずっと働きたい、住みたいと思うために、彼達が多様性を受け入れてくれて、そこをフォローできるようなことをさま未来プラン懇話会で考えてもらえたら良いと思っている。まだまだ座間市は大丈夫だと思う。</p>
委員	<p>私も職業柄、北関東の支店に6年程居たことがある。その市は規模的には座間市と同じくらいの規模で、赴任した時は人口15万人程度のまちだったが、極端に言うと、1年に1万人ずつ減っていくくらいの感じで人口減少が進んでいくような北関東の都市だった。まちはシャッター商店街で、なぜこのようになってしまったのかと当時居た時に思っていたが、単純に若者達のいる場所がなかった。小学校、中学校、高校までは良いが、大学を探すと電車に乗って1時間、さもないと都内に出してしまう。卒業して仕事を求めて地元に戻って来るかというやはり仕事も少ない。若者達が生まれて育っていくのですが、その後の受け皿がないとこういうまちになってしまうと思った。その市の職員とも色々話はしたが、対策というのはなかなか出てこないのが後手に回っているというのが正直なところ。</p> <p>先程話があったように、座間市は全然そのようなことは無いが、若者達が成長して学生時代を迎え、座間市にいて電車で近隣のところに行ったり、市内で仕事をするのは良い話だと思う。座間市の近くで学び、仕事をし、結婚、子育てすることができ、また高齢の時代を迎えることのできるまちづくりをしていくと、すごく可能性のある都市になると思う。本当に地方は厳しい。</p>

委員	<p>住みやすさという点から申し上げますと、先程、ワードクラウドで子どもというキーワードが一番多く出ていて、保育士不足の話聞いて非常に危機感を覚えた。都市間における競争が激しい中で、しっかりと環境を確保するための対策が急務だと感じた。18歳未満の医療費が無料になるということで漸くばら撒きの競争も終結したかもしれないが、これからの保育環境は、子どもに優しい環境づくりというところで、保育士の待遇を考えながら、先を読みながら対応していく必要があると感じた。ぜひとも検討していただきたい。</p> <p>また、道路渋滞についての話があったが、既存の道路は決まっていますしどうしようもないが、少しでも歩道を広げるなど、住みやすさを追求するためには、安心安全なまちである必要があると考える。既存の建物ありきで道路を作るので非常に苦勞するだろうが、今できるところから歩道を広げたり、車が安定して走れるようなしっかりした造りの道路にするなど、できることから目指していただきたい。</p>
委員	<p>道路に関連して、県外の自動車メーカーが、車を造るのも重要であるが、道路整備をきちんとするのが重要だと話されていた。私はざま未来プラン懇話会の委員に座間市の工業を昭和から長きにわたって支えてきてくれた大企業がないのが不思議で仕方ない。物流倉庫が増えていくとトラックの交通量も増えていく。座間市の総合計画の会議などに参加していただければ、もう少し良い知恵があるかもしれない。単に道路を広げると言っても、簡単に道路は広くならないので、立派な会社があるわけだから、もう少し市政への協力を仰いでみてはどうか。</p>
委員	<p>今の話に関連して、その企業の担当者がもっと座間市に貢献をしたいと以前話をされていた。素晴らしい話なので具体的に伺ったところ、事業所内に関係会社を含めると現在1,400人の従業員がいるので、もっと市内にお金を落としたいと話してくれた。例えば、商工会がやっているちよい飲みイベンやざまっぷというクーポン券があるのだが、そういうことに協力したいという話だった。知恵もお持ちだと思うので、このような会議にもっと参加していただきたい。</p>
委員	<p>市外にはない商業施設があると、外から人が集まる。その分渋滞は多い。渋滞の文句はあるだろうが、メリットもあるわけだから、そこを上手く使った案があると良い。</p>

事務局	<p>最後に、ざま未来プラン進捗管理アドバイザーの津軽石教授からお話を頂戴したい。</p>
津軽石アドバイザー	<p>委員の皆様の話聞いていて座間市は色々な可能性があると思つた。</p> <p>まず、私が一昨年総合計画審議会の会長をした時、それ以前の計画では本懇話会のような、いわゆる外部委員による評価の場がなかったように聞いている。それが、このような外部評価により「ざま未来プラン」の進捗管理を市民のための計画としてブラッシュアップする仕組みができつつあると感じている。この点は非常に評価できる部分ではあるのではないかと考えている。いわゆるPDCAサイクルが少しずつ回り始めているように感じる。</p> <p>先程、昨年懇話会の意見をもとに色々な新年度の事業を考えたとき部長から話もあった。この懇話会が市の計画推進や政策推進に非常に役に立っているのである。</p> <p>色々な自治体の話を聞くと、計画策定時の審議を結構熱心に行っているところはあるが、策定後の進捗管理を仕組みとして行っているところは多くはない。そういう意味では、座間市の場合は、他の自治体と比較して、一歩前進というような感想を全体として受けている。</p> <p>皆様の話聞いていて、今日のテーマである人口減少問題への対策として、一般論では、まずは減っていくものへの適応策が挙げられる。例えば、高齢化が進むことにより、空き地が増えていくのでどう対応するのかといった話もあったが、自治体によっては空き家条例を策定し、あるいは空き家を使った子ども達との居場所づくりなどに活用するといった話もある。また、インフラの問題も出ている。道路の話がたくさん出ていたけれども、今は確かに渋滞している、そのうち、もしかしたら道路の維持ができなくなる可能性もある。上下水道も全国的には更新が追い付かないといった状況の地域もあり、能登地震の現場でも、水道管が古く、あちこちで漏水し、いまだに断水している地域も多いと聞いた。そういう意味では、人口減少が進み、税収も減っていくことによって10年、20年先がどうなるのか、それに対応していくことも必要だ。今日は広域化、広域行政といった話もあった。消防だけでなく、医療や福祉のサービス水準の維持の問題も当然出てくるだろうと感じている。</p> <p>次に、人口減少対策として、減らないようにする緩和策というものも一般的によくある。今日の議論でも、人口ができるだけ出て行かないようにするという話があった。資料1の統計を見ると比較的サンプリングが少ないようだが、若い年代は、座間市について意外と肯定的な意見が多い印象を受けた。そういう意味では、若いうちから又は子どものうちから座間市についての愛着心を様々な形で植え付ける取組も有用である。最近、インターナルプロモーション</p>

という地域のプライドを高めるための施策として、市民に対して地域のことをプロモーションする取組が行われる自治体も多い。それによって地元への愛着を高める自治体も多い。また、若者の話も出ていたが、愛知県のあるまちでは、若者参画条例が作られていて、若者の様々な市の政策への参加を促進している。例えば、審議会では15歳以上から委員を選ぶとか、年に何度か中高生を対象にした意見を聞く機会を設けるとか、そういった取組をやっている自治体もある。せっかく若い世代の地元への愛着が高いのであれば、更にその若者の地元愛を高めることによって「座間市は良いところ。住み続けたい。」と思ってもらうことが今後プラスになるのではないかと思っている。

また、社会減をなるべく減らして、人口を増やしていく観点から言うと、埼玉県のある自治体では、東京北部の鉄道で繋がっている地域の子育て世代を対象に一生懸命プロモーションをしてきた。最近神奈川県ではあちこちで実施していることであるが、当時としては珍しかった。「このまちに来るとこんなメリットがありますよ。」と鉄道沿線の東京北部から来る人達に対してプロモーションすることによって、移住者が増えたという例も聞いている。

今日の話の中でも座間市は家賃が安いという話があった。座間市は単身世帯が多いようだが、定住人口を増やす切り口として、もしかしたら、若い独身の人が家賃が安いことを理由に座間市にアパートを借りて、そういった人を対象に座間市が良いところだと思えるような政策を打つことによって、定住に繋がっていくかもしれない。家賃が安いということを1つの売りにするならば、例えば、鉄道沿線でそういったプロモーションを打つとか、そのようなターゲットを絞ったPRが有効なのではないかと話を聞いていて思った。

市においては、本日の委員からの色々な御意見を、今後予算編成の時期を迎えるに当たり、色々な形で取り入れていただき、より良いまちづくりに繋げてほしい。

事務局

次第4議題については以上で終了とする。